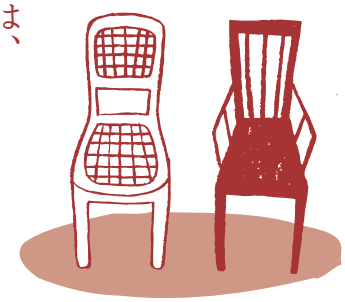
イベントとお金

理想の暮らし方ややりたいことを実現するために、費用がどのくらいかかるのかを調べ、何歳で実行に移したいかを表にまとめてみましょう。こうして完成したライフイベント表は、これからの人生の設計図になります。



どこまでお金をかけますか

現状の把握ができたら、次はいよいよ、理想とする暮らし方や、やりたいことのリストアップです。自宅の買い換えや海外長期滞在といった大きなイベントから、家庭菜園、市民マラソンへの参加といった趣味に関することまで、これからやってみたいことを思いつくまま書き出してください。最初から予算的に難しいと控えめに考えず、この段階では自分の気持ちに素直にやりたいことを挙げてください。

次に、インターネットや書籍、各種ガイドブックで情報収集し、一つひとつのイベントについて予算を見積もりましょう。10～11ページに、代表的なイベントにかかるお金をまとめています。リフォームや住み替えにかかるお金は、27ページに取り上げていますので、そちらを参考にしてください。

同時に、リストに挙げたイベントをいつ頃実行したいかを考え、左ページのライフイベント表に書き込んでいきましょう。子どもの結婚や、孫の誕生など、自分では時期を決められないことも多いのですが、あまり厳密に考えず、予定として記入していきましょう。

計画の修正も大切なポイント

これからは、歳とともに体力の衰えは避けられません。それを考えると、時間があるように思えたリタイア後の生活も、やりたいことができる期間は意外と短いと感じるかもしれません。予算と併せて、実行に移す時期を考えることで、イベントがより現実的なものとなるでしょう。

やりたいことがたくさんあって、手持ちのお金ではすべて実現できそうにない場合、優先順位を付けてください。どこが譲れなくて、どこなら削れるかを考えていくと、自分にとって本当に大事なことも見えてくるはずです。

ひととおり書き込みができたら、ほかのイベントにかかる費用とのバランスを考え、やりたいことや計画を修正するのも大切なことです。

■ ライフイベント表　＜記入例＞

本人	配偶者	イベント		
62歳	58歳	住宅ローン完済		
63歳	59歳	海外旅行（80万円）	長男：結婚（援助100万円）	
64歳	60歳			
65歳	61歳	本人：年金受給開始		
66歳	62歳	車買い替え（200万円）	初孫誕生（祝い金10万円）	
67歳	63歳	長女：結婚（援助100万円）		

■ ライフイベント表

ダウンロード 記入してみましょう。

本人	配偶者	イベント		
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			
歳	歳			

イベントにかかるお金の目安

■子どもや孫への援助

子どもたちも独立し、親としての肩の荷が下りた家庭でも、結婚や住宅購入の際は、少し援助したいと考えている人は多いのではないでしょうか。

「ゼクシィ結婚トレンド調査2023」によると、結婚の際に親・親族から援助をもらった人の割合は78.7%、平均額は約181万円(結納、挙式、披露宴・ウエディングパーティ、二次会、新婚旅行に対する援助総額)。また、首都圏で住宅を購入した世帯への調査では、親からの贈与額は既存住宅で平均約734万円です(贈与を受けた人の平均額。出所:不動産流通経営協会 2023年度不動産流通業に関する消費者動向調査)。

特にここ数年は、住宅購入時の親や祖父母からの援助に、大型の非課税枠が設けられた影響もあり、住宅購入時の贈与がしやすい環境にあります。

結婚や住宅購入の時期は子どもによって違います。そもそも援助するのか、するなら無理のない金額はどれくらいかを考えておきましょう。

■夫婦の旅行

退職して時間ができたらやってみたいことの定番といえば旅行です。

総務省統計局家計調査年報(家計収支編)によると、2人以上世帯で世帯主が60歳代の家庭の1世帯当たりのパック旅行費の年間支出金額(2023年)は、約3万5658円となっています。

70歳以上になってもほぼ同額を支出しています。ひとくちに旅行といっても、行き先や滞在日数、宿泊先や行く時期によって、額は大きく変わります。

そこで、行き先の候補をいくつか挙げて、パックツアーなのか個人旅行なのかなど、希望に合わせてパンフレットやインターネットで調べて相場をつかみ、少し多めに考えておくとよいでしょう。先に大まかな予算を立て、それに合うように旅の内容を考えるのもよい方法です。

■海外で暮らす

リタイア後の暮らし方として、海外への移住や長期滞在に興味を持つ人が多いようです。

風土や気候、文化が気に入った国でのんびり過ごす楽しみもありますし、インドネシアやフィリピンなど、日本より物価の安い国ならば、同じ年金額で日本より余裕のある暮らしが期待できます。

移住するためには、その国のリタイアメントビザなどを取る必要があります。ビザ取得の条件は滞在する国によって異なりますが、毎月の年金額を一定額以上受け取っていることや、現地の銀行に指定された金額以上の預金があることなどの規定がある場合もあります。滞在にかかる費用以外にも、こうしたお金の段取りが必要です。

■車の買い替え

60歳を過ぎてからの車の買い替えは、運転しやすい軽自動車に買い替える人もいれば、昔から乗りたかった憧れの車種を購入する人もいるでしょう。車は購入費だけでなく維持費もかかります。税金や保険料が安く抑えられる軽自動車に対し、外車はメンテナンス費用もかさむかもしれません。どんな車を買うかは購入後の費用も考えて検討することをおすすめします。

■学び直しのための費用

60代で定年退職した後も、勤務先の継続雇用制度で働き続ける人は増えていますが、その後も別の会社に再就職する、短時間勤務の仕事に就く、自営業者として独立して働くなど、働き方の選択肢は広がっています。

働き続けることで、一定の収入を確保できるほか、社会とのつながりを維持でき、生活にも張りが出て健康にも良いといったメリットがあります。

しかし、そのためには自分の専門分野を磨いたり、今後の仕事に求められるスキルを身につけたりすることも必要です。そのための費用も調べて確保しておくといいでしょう。

会社員が仕事に必要なスキルを磨いたり、資格を取得する場合、雇用保険の教育訓練給付制度を利用することも可能です。指定講座を受講することで、修了後に費用の一部が教育訓練給付金として戻ってきます。種類は「一般」、「特定一般」、「専門実践」の3つ。それぞれ受給できる要件や給付金額は異なります。

会社員の間に利用するのもいいですし、退職した人でも退職後1年以内に受講を開始すれば申請できます。制度の詳細や指定講座はハローワークのサイトで調べることができます。ぜひチェックしてみましょう。

そのほか、自治体で運営しているセミナーや、大学等の社会人向け講座を受講する方法もあります。学び直しの成果は、社会貢献につながる活動などで役立てることもできます。

■その他

人生最後のイベントともいえるのがお葬式です。経済産業省の調査によると、「葬儀料一式＋飲食代＋火葬料」の総葬儀費用は約120万円といわれています。葬儀の費用を生命保険で準備する人も多いようです。

先祖代々のお墓に入らないなら、自身で用意が必要です。お墓の費用は、公営は民営より安めですが、地域により異なります。民営ならば100万円を超えるところもあるようです。ただ、葬儀やお墓については住まいのある地域の習慣や家庭の考え方による影響が大きいので、一概に平均値が参考にならない場合もあります。人生の幕引きも自分らしく形式にこだわらないスタイルにしたいなら、45ページで紹介するエンディングノートを使うなどして家族に意思を伝えるとともに、お金の手当も考えておきたいものです。

なお、主なイベント費用を左にまとめました。家庭により幅のあるものなので目安として参考にしてください。

■ イベントに関するお金の目安

国内パック旅行（1世帯当たり・年間）	1.5万～10万円
子どもの結婚費用援助	0～300万円
子どもの住宅購入費用援助（新築マンション）	0～1,000万円
住宅リフォーム（手すり取り付け）	約10万円
（浴室の改修）	約100万～ 200万円
葬儀費用	約120万円
墓地・墓石代（公営か民営か、墓地の場所、納骨方法により幅がある）	永代使用料 数万～数百万円、墓石建立 約60万円～ 年間管理料がかかる場合も